

昭和40年(1965年)4月23日

(金曜)

# クリスチャンが村づくり 高妙原

## 静養と隣人愛深める

### ことし中 村長も選出して運営に十九戸

「西原の自然のなかで静養し、交わりを深めよう」とキリスト教福音教会の信者たちがかねて計画していた中野高妙原町の「池ノ平」クリスチャン村の本格的な村づくりが、いよいよことしから始まる。

話題の「クリスチャン村」は上られており、ことしは静養を待て静養するともに互いに助けあう。近頃は池ノ平の一角は建設されている。通称「イモリ池」の南側、付近に東大寮があり、白カバの点在する美しい静かな場所だ。そこに、まず四戸が昨年についで建てられ、その目的は「西原の美

しい自然のなかでほんとうの静養を深めよう」と互いに助けあう。近頃は池ノ平の一角は建設されている。通称「イモリ池」の南側、付近に東大寮があり、白カバの点在する美しい静かな場所だ。そこに、まず四戸が昨年についで建てられ、その目的は「西原の美

年ほど前から全開に呼びかけ、会員を募集した」という。その結果、会員は四十五人に達し、そのなかには遠く大阪からの加入者もいる。職業は教員、会社員などいろいろあり、新大の教員も含まれている。

最初に確保した土地は八、四〇〇平方だったが、半田牧師による現在の村の用地は三万平方メートルに達している。会員は権利金を払って約六〇〇平方メートルの土地を借りて家を建てようとしている。また大寮も、も六平方村以下の質素なものといつていい。同村には、現在教会がないため半田牧師のロッジを仮の教会に使っているが、クリスチャンの村にふさわしく礼拝堂も建てようとしている。村長は運動場や子供の遊び場など共同施設もつくり「また、付帯して豊潤な高山植物を移植し、静養するらしい環境を築きたい」と半田牧師の村づくりの夢はくらくらしている。

さらにこの村の特色は、村民から選ばれた村長ら教人の役員によって運営されること、村の秩序を守り静かな美しい生活環境を確保するために樹木の伐採、電線の増築などいっさいは村長の許可を必要とし、村長にはかなりの権限が与えられている。初代村長には昨年の会員総会で竹中治郎明治学院大の会費総会が選ばれ、半田牧師が助役になっているが、村の運営は年額二千四百円の会費でまかなわれる。また、まだ戸数も少なく村だ。また、この秋には二十戸近くになり、村としての体面も整えられ、独特の村としての動きもみられることになるとい

## クリスチャンが村作り

### 静養と隣人愛深める

#### 今年中に19戸 村長も選出して運営

「高原の自然の中で静養し、交わりを深めよう」とキリスト教福音教会の信者たちがかねて計画の中だった中頸城郡妙高高原町の“池の平クリスチャン村”の本格的な村づくりが、いよいよことしから始まる。

話題の“クリスチャン村”は上信越高原国立高原内、妙高山を間近に望む池の平の一角に建設されている。通称イモリ池の南側、付近に東大寮があり、白カバの点在する美しい静かな場所だ。そこにはすでに四戸が去年のうちに建てられており、今年は雪消えを待って建設が始まるが、計画ではことし中に十五戸が増設される。

全国でも珍しい村づくりの企画者である日本キリスト教団高田教会、妙高高原教会の半田道夫牧師によると、その目的は「高原の美しい自然のなかでほんとうの意味で静養をするとともに互いによい近隣となるよう交際を深めることだ」といい、運営そのほかの点については「野尻湖のわきにある外人村を参考に検討、相談してみたら予想外に賛同を得たので三年ほど前から全国に呼びかけ、会員を募集した」という。その結果、会員は四十五人にふえ、そのなかには遠く大阪からの加入者もいる。職業は教員、会社員などというとりどりで、新大（新潟大学）の教官も含まれている。

最初に確保した土地は8,400平方メートルだったが、半田牧師によると現在その村の用地は三万平方メートルほどにふえている。会員は権利金を払うことによって約六百平方メートルの土地を借りて家を建てることができるが「今のところ用地が広がっているので何戸ぐらいの村になるか、検討がつかない」そうだ。注目される点は、ここに建てられる家は自然をそこなわないようにとか、近隣との交際の障害にならないようにヘイヤカキ根は造ってはいけない。

また大きさも六十六平方メートル以下の質素なもの-といった制限があることだ。

同村には、現在教会がないため半田牧師のロッジを仮の教会に使っているが、クリスチャン村にふさわしく礼拝堂も建てる予定で、ことし中に整地するという。 将来は運動場や子供の遊び場など共同施設もつくり「また、付近に豊富な高山植物を移植したりして素晴らしい環境を築きたい」などと半田牧師の村づくりの夢はふくらんでいる。 さらにこの村の特色は、村民から選ばれた村長ら数人の役員によって運営されることで、村の秩序を守り静かで美しい生活環境を保つために樹木の伐採、家屋の増築など一切は村長の許可を必要とし、村長にはかなりの権限が与えられている。 初代村長には今年の会員総会で竹中治郎明治学院大学教授が選ばれ、半田牧師が助役になっているが、村の運営は年額二千四百円の会費でまかなわれるそうだ。 まだまだ戸数も少なく村らしくないが、ことしの秋には二十戸近くになって、村としての体裁も整えられ、独特の斑としても動きもみられることになるだろう。